

学校教育目標

自ら伸びる とともに伸びる

めざす子ども像

主体的に学び、ともに伸びようとする児童生徒

研究主題

主体的に学び、ともに伸びようとする児童生徒の育成

～相互理解を深めるための対話を通して～

研究仮説

対話を通して児童生徒が自分の考えを伝え合い、互いの理解を深めていくことができれば、相手の気持ちを受け止めようとする姿勢など、よりよいコミュニケーションの方法が身に付き、このことが思考の整理や表現力の向上、学力の向上にもつながると考える。その結果、自分らしさを発揮しながら他者と主体的に関わり合い、共に成長しようとする児童生徒の育成へと発展していくであろう。

「対話」を軸とした授業改善

- ① 対話を深めるためのしかけ
 - ア 導入：児童生徒に問いをもたせ、「やってみたい」「話してみたい」を引き出す。
 - イ 教材：主体的なかわりを促す、選択、自己決定できる教材、ICT活用。

☆ウ 対話

- ・場の構成（自己との対話、教材との対話、他者との対話、）
- ・児童生徒の対話を深める発問

- エ 考えを再構築する場の設定
- オ 振り返り：対話によりどう考えが深まったか。

- ② 発達段階に応じた話し方・聴き方の指導
 - ア 話合いの型・発表の型の作成・指導

相互理解を深める居場所づくり

- ① 教室にいるすべての児童生徒の居場所となる安全・安心な学級づくり
 - ア すべての児童生徒にとって過ごしやすい物理的な環境整備
 - イ QU調査など、日々の実態把握を活用した人間関係づくり

☆ウ ソーシャルスキルトレーニングの実施

- ② 登校していない実態に応じた居場所づくり（本音で話せる・興味関心に沿うために）
- ③ 登校しているが、教室に行けない実態に応じた居場所づくり（よき理解者の存在・「やってみたい」を引き出す）→SSR・「かがやきルーム」の充実